選考委員会における委員のコメント

樟蔭高等学校

「ディベートを通して考える著作権」

○ 「ディベートを通して考える著作権」という教育活動において、資料に求められるものは、生徒の事前学習とそれぞれのディベートでどんなやりとりがあったのかの記載が判断の材料となるが、前者の内容が不足しているのが残念である。

○ ディベートを取り入れ、調べる目的を明確にし、生徒が主体的に取り組ませる学習方法は参考になる。「やりとりメモ」からも、充実した話し合い活動が行われた様子が伝わってくる。更に、調べさせ方の工夫や、話し合いを充実させるための教師の関わり方や支援についての記述があれば、他校の参考になると思う。

○ 試みとしては必要なことだが、専門的・個別的な問題に片寄りすぎていないか。もう少し基礎的、普遍的なテーマを扱うことも必要であろう。

○ ディベートは特定の課題を深く考える上で効果的な学習手法であり、特に権利者と利用者の間で意見の対立が起きやすい著作権問題について、ディベートの手法で考えることは理にかなっており、他の参考となる事例である。やりっぱなしではなく、ディベートで出た意見や主張の正誤を正しく指摘し、的確に助言するのは、それなりの教師の力量が求められることであるが、指導教師がどの程度の予備知識を持っておけばいいかを明らかにできれば、多くの学校で取り組めると思われる。

○ 生徒同士のディベートから、様々な展開例がでており、ストーリー性がある事例となっている点、授業の様子がよくわかり、すぐに実践できるように工夫されている報告になっている点はよい。ただし、ディベート（話し合いの進め方）についての学習が多く、もう少し著作権教育に触れてほしかった。さらなる工夫・改善を期待したい。

○ 多くのディベート学習では２時間程度の設定をするが、本実践は調べ学習の時間や事前学習の時間をしっかり設定し、８時間という十分な時間を用意している。そのために学習が駆け足になることがなく、著作権についてもじっくり考え、気付くことができている。ただ、ディベートを実際に著作権者の立場になる作品制作や情報発信などの活動につなげると、ディベートで学んだことが生かされてよりよい実践になると思う。

○ 生徒自らが、著作権について調べることで、教科書から学ぶより著作権をより深く理解することができている。動画投稿サイトや本屋での撮影など、生徒に身近な問題を取り上げていることで、授業が分かりやすく進んでいる。また、反対意見を聞くことで著作権の理解が深化されていることが分かる。

○　著作権に対する問題意識をもたせるために、ディベートを通じて著作権を考えさせている。ディベートを通じてプレゼンテーションすることで見られる予想外の生徒の真剣な態度は、通常の授業で見られない表情である。自分の意見と違う場合も自分の意見を述べなければならず、意見が活発になることでどういう判断がいいのか共通理解が深まる良さがある。

○　ディベートで著作権について考えるという授業設計がすばらしい。ディベートをすることで、生徒が著作権について真剣に向き合い、生徒に変容が見られたことがよく分かる。今後、これらで得たことを、生徒の実践力がどのようについていったのか記述があるとさらに良い。

以上